

いつもお世話になっております。ファクスお借りして恐縮です。ご発注よろしくお願いたします。
書肆心水 FAX 03-6677-0682

軍備と想定敵国

世界戦争時代の経験

伊藤正徳

民主国の軍備選択は「想定敵国」なしに可能か

国民の選択としての軍備はいかに具体化されるべきか

「すべての軍備の根底は〈想定敵国〉でなければならぬ」——これは過去の思想か、普遍的標準か。軍事と政治の交点にある軍備選択を決定する公論の条件をめぐる具体的考察。軍備が領土と利権拡大のための生産的事業であった時代が終わり、軍備縮小が国民的要求となった現代における合理的軍備選択の理路。「必然的想定敵国」から、「可能的想定敵国」、そして十中八九戦わざる純地理的な想定敵である「便宜的想定敵国」まで、議論のグラデーションを示し、武装論議の本質を考える歴史的事例。

伊藤正徳 (いとう・まさのり) / 1889-1962) ジャーナリスト、軍事評論家。慶應義塾卒。中央新聞を経て時事新報に入り、特派員、海軍通の記者として名をあげる。時事新報編集局長、中部日本新聞編集局長、共同通信理事長、日本新聞協会理事長、時事新報社長、産経時事取締役主幹を歴任。主著『新聞生活二十年』『新聞五十年史』『連合艦隊の最後』など。菊池寛賞受賞。

索引	第14章	第13章	第12章	第11章	第10章	第9章	現実篇	第8章	第7章	第6章	第5章	第4章	政策篇	第3章	第2章	第1章	原理篇	●目次
	外に想定敵ありや	露の陸軍、米の海軍	極東海上権の形勢一変	かざるる日本	英国のシンガポール築城と脅	潜水艦の廃止如何	補助艦問題の批判	第二軍縮会議と国論	想定敵国と八八艦隊史論	日本の想敵国策	華府会議に溢れた想敵観念	米海軍大演習の想定敵軍	列強の想定敵国政策	想敵交互作用の証明	想敵交互作用の証明	軍備の第一標準	想定敵国の三種類	

新刊
注文扱返条付
清藤

	<h2>軍備と想定敵国</h2> <p>世界戦争時代の経験 伊藤正徳 ISBN978-4-910213-27-9 C0020 A5判上製 288頁 本体6900円+税</p>	<p>6 月下旬刊</p>
	<p>FAX 03-6677-0682 でんわ 03-6677-0101 http://www.shoshi-shinsui.com</p>	<p>書肆心水 Shoshi Shinsui</p>

ご注文は JRC へ 03-3294-2177 すべての取次への出荷が可能です。返品は長期にお受け致します。(了解者 JRC 宮尾)